

県立同和問題関係史料センター開所20周年 記念講演会・人権教育シンポジウム 報告書

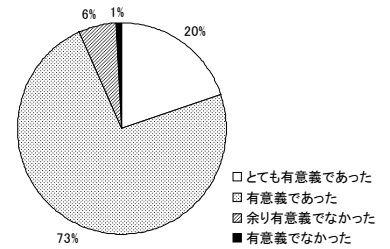
- 1 日時及び会場 平成25年12月3日(火) 13:00~16:00 かしはら万葉ホール ロマンピアホール
- 2 参加者 市町村教育委員会教育委員長、教育委員、教育長、市町村社会教育委員会議議長、社会教育委員、社会教育主事、社会教育関係団体指導者及び構成員、市町村教育委員会事務局職員、教職員(小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校) 県民 等 《430名》
- 3 内容 13:00~13:15 オープニング・プレゼンテーション・県教育長開会あいさつ
13:15~14:25 記念講演
14:30~15:50 人権教育シンポジウム

<記念講演> 「中世奈良の風景」

講師 服部英雄 (九州大学大学院比較社会文化研究院教授)

(講演の要旨)

- ・ 差別の歴史(差別された人たちの成し遂げてきた仕事や生活)を理解することは、差別の解消につながる。
- ・ 奈良市にある北山十八間戸はハンセン病患者等を保護・救済した施設である。その運営に携わっていたのは「坂の者」と呼ばれた被差別民衆であった。中世には大寺社周辺に参詣者や僧侶を頼りとしたハンセン病患者や彼らを世話する人々といった被差別民衆(非人)が存在した。
- ・ 名勝・旧大乘院庭園は、善阿弥・小四郎・孫四郎といった「河原者」と呼ばれた人々によって造られた。また、北山十八間戸あたりに住んでいた坂七郎は馬の獣医にあたる仕事をしていた。他にも芸能の仕事を担当した人など、中世奈良には多様な民衆が暮らし、社会保障的な仕事を担って活躍していたにもかかわらず、差別を受けていた。
- ・ 現代社会においては、未だ差別意識が克服されたとはいえない状況がある。その解消に向け、歴史に学ぶ取組を進めることが大切である。



<人権教育シンポジウム>

テーマ 「人権尊重の視点に立った地域コミュニティ」

[シンポジスト]

- 高木和久 (文部科学省 コミュニティ・スクール推進員)
- 服部英雄 (九州大学大学院比較社会文化研究院 教授)
- 堀内伸起 (五條市教育委員会 教育長)
- 西川知恵巳 (大和高田市立陵西小学校 校長)

[コーディネーター]

井岡康時 (県立同和問題関係史料センター 所長)

- 内容
- ・ 自校の子どもたちの課題を整理し、すべての子どもが元気に学校に来れるよう、「ほめほめ大作戦」と名付けた取組を進めるに従い、学校・地域が活発に動き始めた。(西川)
 - ・ スクールサポートボランティア事業や地域の行事を通して、地域の人々の思いや営みをつなぎ、地域コミュニティの活性化と子どもたちのアイデンティの確立を図り、人権が大切にされる豊かなつながりを根付かせようとしている。(堀内)
 - ・ 身のまわり(地域)にある地名などを素材として、人権について考えることが大切。(服部)
 - ・ 社会の分業化により、自己責任が問われることの多い今、歴史を作り出してきた人々の営みに学び、子どもたちを将来の地域の担い手として育てなければならない。学校・家庭・地域が同じ目の高さで子どもの姿を語り合うことが大切。(高木)
- ◇ 子どもの声・地域の思いを出発点にした取組を、広く地域に発信することで、人権尊重の視点に立った地域コミュニティが築かれていく。子どもの自治を支援し、地域を愛する子どもを地域で育てていくことが求められている。(まとめの討議から)

